木活プロジェクト研究月報

http://www.u-gakugei.ac.jp/~w-woods/

Vol.21

■2006Feb■

「木活プロジェクト研究月報」20号を超えて
…鉄矢悦朗/建築家・東京学芸大学助教授
ベルリンの子ども農場「Pinke Panke」視察
第54回 卒業修了制作・論文発表会　開催報告
Design Report from Sweden
topics 木が木を語る

「木活プロジェクト研究月報」20号を超えて

鉄矢悦朗／建築家・東京学芸大学 助教授

鉄矢悦朗研究室 Etsuroh TETSUYA Lab.
http://www.u-gakugei.ac.jp/%7Etetsu/DESIGN/
TEL+FAX 042-329-7581（研究室直通）
tetsu@u-gakugei.ac.jp

「教育分野に木材を活かしたデザインの基礎的研究」を2004年度より開始し、その活動を広く、わかりやすく公開することを目的に、このニュースレターを発信し前号で20号となりました。図工の授業、学校建築、学校教員、木材関係者などからの情報収集を通じて、リアリティーのある木材に関する期待・可能性や課題を見出してきました。また、東京学芸大学紀要（芸術・スポーツ科学系第57集）では、2005年6月までのまとめとして、編集・デザインを担当しているプロジェクトアシスタントの八重樫と①学生参加と外部との繋がりの両立②情報発信の強化③地域への研究移行を、反省点と今後の留意点として掲げました。そしてこの①と③は、昨年9月より（社）国土緑化推進機構からの平成17年度「緑と水の森林基金」の助成が加わり、具体化することになりました。近畿大学 産業理工学部（旧 九州工学部）助教授 金子哲大氏、九州大学 技術補佐員 黒澤茂樹氏が参画する九州研修（2/27-3/2）と沖縄県立芸術大学 助手 翁長洋子氏と東京芸術大学 博士課程 金城正紀氏に参画する沖縄研修（3/22-25）です。

まだ20ヶ月ですが、継続した活動に関係した学生たちは、それぞれ「木と人の関係」を考え、発展しているようです。例えば、本年度の卒業・修了制作などにもその成果が見えております

今後とも「次世代」に伝えてくべき持続可能な木と人の関係を探求していきます。

2005年度日独青少年指導者セミナーレポート
ベルリンの子ども農場「Pinke Panke」視察

ドイツでは半日学校という学校システムに加え、その後の学校外教育施設というものが存在している。半日学校後、すべての子どもたちが学校外教育施設に行くわけではないらしいが、学校で得意分野が認められなくても、学校外教育施設では、認められることがあるなどの有効性もあるようだ。一方でOECDテストの評価によってドイツも危機感を抱き、全日学校への道を歩み出しているらしい。

↓写真1　↑写真2

昨年11月21日、寒空のベルリンの下、日独指導者セミナーの視察で子ども農場「ピンケパンケ」を訪れた。視察の参考資料*1によれば、『1991年にオープン。組織形態は、「青少年援助を行う公益施設として認められた登録協会」。施設の目的は「児童と青少年に市内で自然に近い、遊びを通じたエコロジカルな学習の場を提供すること。大きな音や声を出してゆっくり遊べる場。責任感を身につけ、自分のしたこと、あるいはしなかったことがどういう結果をまねくか理解する」。事業内容は①建設公園（小屋を自分たちで建てる）②動物部門（世話、餌やり、飼育）庭部門③各種工房（木工、フェルト、自転車、陶芸、紙その他の材料）④火を焚く場所⑤プロジェクト、祭りなどのイベント』

写真3

動物部門のながめ

月曜の定休日の視察となり、子どもの姿がなく残念だったが、[写真1]を見て欲しい。社会的に見れば廃材なのかもしれないが、私には宝の山のように見えた。子どもたちが、つくり続けた証が[写真2]である。実体験という迫力がそこにはあった。遊びの中に秩序をつくり、材を立ち上げていく喜びとその体験ができることをうらやましく思った。

[写真3]*2は、手作りの釜。ピザなどをみんなで焼いて食べるらしい。その他にもモノづくりにとって、魅力的なものが満ちあふれていた。

住所：Am Bügerpark 15-18,13156 Berlin

*1 参考資料翻訳：三浦まどか　*2 撮影：熊谷　朗